

【ポスター発表】

## 高齢者通所介護施設内におけるソーシャルサポートと利用者の生活満足感との関連に関する研究

○ 関西福祉科学大学 家高 将明 (会員番号 7811)

〔キーワード〕 通所介護 ソーシャルサポート 生活満足感

### 1. 研究目的

通所介護施設（以下、施設とする。）は、趣味やレクリエーション活動等を通じて、利用者同士及び施設職員との交流を図り、利用者における社会性の維持や回復を支援する機能をもつ。この施設における他者との交流の一部には、人々の間で取り交わされる諸々の支援を指すソーシャルサポート（以下、SSとする。）としての関わりが含まれる。

施設内におけるSSについては、先行研究において分析が行われており、SSと生活満足感との関連をみた結果から、他者よりサポートを受けることで、サポートを受けた利用者の自尊心が損なわれる可能性があることが報告（家高,2011；家高,2010）されている。一方で同じく、SSと生活満足感との関連をみた別の先行研究では、両者の間に関連が認められなかったとする報告（家高ほか,2013）もある。このように施設内におけるSSと利用者が抱く生活満足感との関連については、現時点で定まった見解は得られていない。

しかしこれらの先行研究における結果の相違については、それぞれが分析において用いた尺度の違いにより生じている可能性がある。そこで本研究は、分析に用いる尺度を考慮した上で、施設内におけるSSに着目し、SSと生活満足感との関連について再検討を行う。

### 2. 研究の視点および方法

調査対象は、縁故法により抽出したA県下における施設（3施設）の利用者125名である。分析については、調査票に欠損値のみられなかった103名を対象とした。調査対象者は、サービスの利用期間が1年以上であり、認知症でない者とした。調査方法は承諾を得た各施設に郵送で調査票を送付し、対象者の直筆で回答してもらった。また直筆での回答が難しい者については、面接方法について説明を受けた調査協力員による個別の構造化面接によって聞き取りを行った。調査期間は、2013（平成25）年12月～2014（平成26）年1月で実施した。調査内容は、以下の尺度を用いて測定した。SSについては、施設内で行われているSSの実態を踏まえて作成した尺度を用いた。この尺度は、「受領サポート」「提供サポート」の2つの下位尺度で構成される。さらに施設内において行われている情緒的サポート及び情動的サポートの頻度を捉える設問が設けられており、「しょっちゅう：4点」から「全くない：1点」の4件法で回答を求めている。生活満足感については、古

谷野等（1989）が開発した生活満足度尺度 K(LSIK)を用いた。

### 3. 倫理的配慮

本研究は研究目的、意義、方法、個人情報 の徹底管理の約束、データを研究目的以外で使用しない旨を施設代表者及び調査対象者に対して口頭及び書面にて説明し、同意を得た上で実施した。

### 4. 研究結果

本研究は生活満足感を従属変数とし、SS を独立変数とする重回帰分析を行った。独立変数における SS については、下位尺度である「受領サポート」及び「提供サポート」をそれぞれ投入した。さらに SS 以外に介護度、健康感、ストレス状況、性別、施設外における他者との SS 状況をコントロール変数として投入した。その結果、生活満足感と提供サポートとの間に有意な関連は認められなかった ( $\beta = -.04, n.s.$ )。また受領サポートについては生活満足感に負の影響を及ぼす可能性が示された ( $\beta = -.21, P < .05$ )。

### 5. 考察

重回帰分析の結果、提供サポートと生活満足感との間に関連は認められなかったが、受領サポートについては、サポートが多くなることにより、生活満足感が低下する可能性が認められた。この結果は、他者からサポートを受けることにより、サポートを受けた利用者の自尊心が損なわれる可能性があることを報告した先行研究の結果と一致する（家高,2011；家高,2010）。そしてこの先行研究は、健康な高齢者を対象とした SS を測定するための尺度をそのまま流用した方法で SS を測定していることから、その実態を適切にとらえることができていない可能性が指摘されている。しかし施設内で行われる SS の実態を踏まえて作成された尺度を用いた本研究において同様の結果が得られたことから、施設内におけるサポートの受領によって、高齢者の自尊心や自律性が損なわれることや喪失感の増強につながり、その結果として生活満足感に負の影響が及ぼされた可能性は否定できないと考える。

#### 引用文献

- 家高将明ほか（2013）「高齢者通所サービスにおけるソーシャルサポート効果に関する研究」大阪ガスグループ福祉財団調査・研究助成報告書 Vol.26 pp15-22
- 家高将明（2011）「高齢者デイサービスにおける社会福祉実践の支援展開に関する研究—デイサービスにおける支援者及び利用者に対する実態調査の結果から—」『総合福祉科学研究』2,75-85
- 家高将明（2010）「高齢者デイサービスにおける支援効果の可能性に関する研究—支援サービスにおける今日的課題—」『人間福祉学研究』3,91-105
- 古谷野亘、柴田博、芳賀博ほか（1989）「生活満足度尺度の構造 —主観的幸福感の多次元性とその測定」『老年社会科学』11,95-115